

令和5年度 学校経営方針

伊賀市立府中小学校

1 教育目標 豊かな人間性と、たくましく生き抜く学力を身につけた、健康で明るい児童の育成

2 経営方針

社会情勢が大きく変化する中、児童が未来に夢や希望を持ち、他者と協力しながら、自立した心豊かな人間として生き抜いていけるよう、以下の3点を重視した学校経営を進める。

- (1) 児童一人ひとりの良さや個性を認め、可能性を引き出し、持てる力を発揮できる教育活動を創造する。
- (2) 教職員が専門職としての自覚を持って、自ら研修に励み、意欲的に実践すると共に、チームとして協働することにより、よりよい学校づくりに努める。
- (3) 保護者や地域住民、保育所(園)や中学校等と連携を強化し、開かれた、特色ある学校づくりに努める。

3 めざす子ども像

(1) 人権を大切にする子ども……相手の気持ちを考えて行動する子ども

- ・常に事象を自分事として考え、自分自身に指を向け、自分自身の考え、意識、行いを見つめ直そうとする子ども
- ・部落問題をはじめとする人権の諸問題について、正しい知識をもつとともに、それらの解決に向けて、仲間とともに取り組んでいく実践力が培われている子ども
- ・誰もがかけがえのない存在であるということを理解し、自分自身も周りの人も大切にできる子ども
- ・多様性を認められる子ども
- ・自分のことが好き、自分も友だちも大切にできる子ども
- ・人とのつながりの中で、自分が必要とされ、そこに自分がいる価値を実感できる子ども
- ・友だちの思いに共感しようとする子ども
- ・一人一人にある権利を大切に、仲間とともに他の人の権利も守っていこうとする子ども

(2) 自ら学ぶ子ども……意欲を持って自ら学び続ける子ども

- ・夢や目標を持ち、その実現に向けて、努力する子ども
- ・自分の興味・関心のあるものを見つけ、主体的に学ぼうとする子ども
- ・好奇心、探究心をもって、意欲的に取り組むことができる子ども
- ・学習規律を守り、自ら学習に向かおうとする子ども
- ・困難なことに出会っても、途中で投げ出さず、挑戦し、粘り強く最後まで学びを続ける子ども
- ・分からないことは「分からない」と言える子ども
- ・アドバイスを素直に受け入れ、改善しようとする子ども
- ・家庭でも自ら進んで学習をしようとする子ども

(3) 自分で考える子ども……発想が豊かで、判断が適切にできる心豊かな子ども

- ・自分の考えを持ち、自ら動くことができる子ども
- ・物事の善悪を常に考え、自分で判断して行動できる子ども
- ・物事を多面的に考えたり、柔軟に行動できたりする子ども
- ・友だちから聴いた思いや暮らしに対して、自分の思いや暮らしを返していこうとする子ども

(4) つながり合う子ども……励まし合って仲間と共に高まろうとする子ども

- ・互いのくらしの事実を知り合うことで、安心して過ごせる仲間や「学びの場」をつくっていける子ども
- ・相手の思いを想像しながら、自分の思いを伝えたり、行動したりする子ども
- ・自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを感じたり、くみ取ろうとしたりする子ども
- ・友だちと力を合わせてやり遂げた喜びを感じることができると子ども

- ・互いを認め合い、励まし合って、仲間と高まろうとする子ども
- ・隣にいる友だちを放っておかない子ども

(5) 命を大切にする子ども……健康で安全に生活する子ども

- ・自分の健康や体力に関心を持ち、たくましく生きようとする子ども
- ・規則正しい生活を意識して過ごす子ども
- ・約束事を守って生活しようとする子ども
- ・自分の生活をよりよくしようと工夫する子ども
- ・自分も友だちも家族に大切に育てられた宝物であることを知っている子ども
- ・植物や生き物を大切にする子ども
- ・何事に対しても感謝の気持ちをもつことができる子ども

4 努力目標

(1) 人権感覚あふれる学校づくりに努め、全教育活動を通して人権尊重の精神を養う。

- ・一人ひとりの自尊感情を高め、お互いに支え合い、ともに学び合う集団をつくる。
- ・日記などを交流する活動を通して、それぞれのくらしや思いを共有した仲間づくりを進める。
- ・城東中学校区の学校と連携し、子どもたちの発達段階に応じた人権・部落問題学習を進める。
- ・人権・同和教育について、保護者や地域住民の啓発を進める。

(2) 自ら「学ぶ」力を育てる授業の改善、充実に努める。

- ・学び合う授業を通して、「わかる」喜びを実感させるとともに、「学び方」を身につけさせる。
- ・基礎的・基本的な学習内容を定着させる。
- ・学校での読書指導を進めるとともに、家族ぐるみでの読書の習慣化を推進する。
- ・家庭学習の定着を図る。

(3) キャリア意識の育成を計画的に推進し、自立のために必要な能力や態度を養う。

- ・住みよい地域づくりのために活躍されている人との出会いを通して、その人の生き方に学び、自分の将来に夢や希望を持つことができるようにする。
- ・地域の人材や教育資源を積極的に活用し、地域や郷土への愛着と誇りを育てる。
- ・キャリアパスポートを活用し、将来に向けての学習や生活の見通しをもてるようにする。

(4) 特別支援教育推進のため、保護者や専門機関と連携し、一人ひとりのニーズに合った教育支援体制を構築する。

- ・「ともに学び、ともに育つ」集団づくりを進める。
- ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う。
- ・本人や保護者の思いや願いを受け止め、医療・福祉・教育等関係機関との連携を図りながら支援の充実に努める。

(5) 心に響く道徳教育を推進し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成と基本的生活習慣の確立を図る。

- ・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えられるよう、道徳的諸価値を培う読み物教材や人との出会いを大切に授業を創造する。
- ・自己の生き方についての考えを深める学習を通して、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

(6) 国際理解教育を推進し、多文化共生社会をともに築こうとする子どもを育てる。

- ・外国につながる児童の自尊感情を高めるとともに、学力・進路を保障する取組を進める。
- ・地域に暮らす外国の方からの聞き取りや体験・交流学习を通じて、互いの言語、文化、生活習慣等の違い

を認め合う子どもを育てる。

(7) 生命の尊重と環境保全に関する指導を充実する。

- ・家庭と連携して、望ましい生活習慣づくりをする。
- ・健康に関心を持ち、いのちを大切に教育を進める。
- ・安全・安心の確保に向けて、教職員の危機管理意識の向上を図る。
- ・危機的状況で身を守るため、考え行動する力を育てる防災教育を進める。

(8) 研修体制を確立し、研修活動を継続的・発展的に推進する。

- ・「わかる授業」の実現をめざし、授業力の向上のための実践的研修を行う。
- ・学習指導要領に即した研修や、喫緊の教育課題についての研修の場をもつようにする。
- ・教職員の資質、能力の向上のための研修会に参加できるように校内体制を整える。

(9) 地域に開かれた、特色ある学校づくりを推進する。

- ・家庭や地域へ子どもたちの姿を積極的に情報発信し、学校との信頼関係を深める。
- ・学校評価アンケート等を実施して、組織的かつ継続的な改善を図る。
- ・家庭・地域の教育力を活用し、教育活動の充実を図る。
- ・保育所、小・中学校及び関係機関等との連携を強める。
- ・保護者や地域住民と子どもの課題を共有し、特色ある学校づくりを進める。

(10) 教職員が教育に専念できるよう働きやすい職場環境を整える。

- ・教職員の心身の健康状態を把握し、安全衛生委員会を開催することにより、職員の働き方を見直し、より働きやすい環境を整える。
- ・全ての教職員が平日7時まで退校できるよう時間外勤務を削減する。月平均の超過勤務時間は30時間以内、年間360時間を超える教職員が出ないようにする。

5 めざす教職員像

(1) 鋭い人権感覚をもち、子どもとともに成長する教職員

- ・子どもの生活背景を知り、子どもや保護者の思いを理解するように努力するとともに、教育課題の把握に努める。
- ・いじめは絶対に許されないという認識のもと、子どもの変化を見逃さず、いじめ防止・早期発見・解決に努める。
- ・職員間の報告・連絡・相談を大切に、課題の共有や指導の連携に心がける。

(2) 教育愛に燃え、愛情深く子どもを見守る教職員

- ・常に「子どもに愛情をもって育てる」という視点で一人ひとりの子どもと向き合う。

(3) 常に課題を持ち、問題解決に意欲を燃やす教職員

- ・指導に関わる多方面の情報をつかみ、生かす努力をする。

(4) 保護者・地域住民・教職員との連携に努め、優しさと厳しさを兼ね備えた信頼される教職員

- ・情報共有を心がけ、課題を一人で抱え込まず、組織で解決する発想と行動力をもつ。
- ・家庭訪問等を実施し、保護者との連携に努める。
- ・教育公務員として、その職責を自覚する。

(5) 心身ともに健康な教職員

- ・元気に子どもたちと向き合えるよう、時間外労働や総勤務時間の縮減に取り組み、自身の健康管理に努める。